

# Safe Volu

(Former First Aid)

静岡県赤十字安全奉仕団機関紙 No.65 平成19年9月5日発行

## 静岡県・伊豆市総合防災訓練（会場型）からの報告

9月1日は「防災の日」、この日は昭和35年（1960）に閣議で決められています。防災の日が制定された経緯は、大正12年（1923）9月1日に伊豆大島付近の相模湾北西部を震源とする海溝型地震「関東大地震（M7.9）」が発生したこと、立春から数えて210日（特に台風が多いと言われている）が9月1日にあたること、また、昭和34年（1959）9月26日の「伊勢湾台風」によって戦後最大の被害が発生したことが契機となりました。それと、甚大な被害を発生させている災害を忘れず、来るべき災害に備えるという意味も込められています。地震や風水害に対する心構え等を育成し、発災の時に被害を最小限にとどめることを目的として、各地で防災訓練（予知型）が開催されています。

今年の静岡県の会場型訓練は、伊豆市を会場に開催されました。本団参加者からの訓練報告を紹介いたします。

「当日の会場は、海風が多少強かったものの天候に恵まれていました。しかし、ヘリコプターで移動予定だった日赤医療センター救護班が、箱根の天候悪化で飛来できず、dERU内は、伊豆赤十字病院救護班の6人のみとなってしまいました。急遽、看護奉仕団の方の応援で対応ができました、想定と違った場合に、どのような判断と対応ができるのかが訓練であると感じました。今回の訓練では、ボランティアセンターの開設運営は行わなかったため、実際はニーズに対しての活動ではなく、軽症者手当てを行う活動となりました。負傷者は模型や血糊でケガを再現され、迫真の演技で運ばれました。「人」以外にもマネキンを使用し、黒トリアージをされたマネキンに対し、遺体処理をするという初めての経験もしました。しかし、遺体袋へ移す際に、遺族役にどのような声を掛けていいのか判らず、遺族への配慮がとても大切であると感じました。実災害では必ず起こることなので、自分自身が落ち着いて、よく考えてから行動しなければならない事を痛感しました。今回の訓練参加者の中で、ふざけて関係のない人を搬送してきたり、人ごみの中で喫煙をしたり・・・ということがありました、モラルが問われます。報道陣や政府関係者、数百名の参加者に圧倒されながらの活動でしたが、たいへん有意義な訓練でした。」

訓練の様子は、支部ホームページに掲載される予定です、ご期待ください。（訓練・研修部会）

## 今後の予定です、ご協力いただけますか？

ご協力いただける方は、支部本団事務局までお問い合わせください。

9月22日（土） 日本赤十字社静岡県支部災害救護訓練 静岡市「駿府公園」

10月23日（火） 日本赤十字社第3ブロック支部合同災害救護訓練 掛川市「つま恋」

11月1・2・3・4日 大道芸ワールドカップ救護ボランティア 静岡市内

## 今月の眼（見た）、耳（聴いた）！「赤十字奉仕団員の奉仕活動とは？」

本団の団員数は「127人」（19年9月1日現在）の登録です。本団は団規約のなかで「生命の尊重と苦痛の軽減を基本理念とする赤十字精神に基づき・・・社会安全のために奉仕する・・・赤十字事業の伸展に寄与することを目的とする。」と約束しています。この目的から、私達団員は社会安全に奉仕し、「人道・博愛」の赤十字精神の下に働く赤十字職員と協力して、赤十字事業の進展に寄与することとなります。「人道・博愛」は赤十字の基本であり、私達の活動の源であることを再確認してください。何かを見失いそうになり、人に苦痛を与えそうになったら、まず基本に戻ってみるのが大切です。この基本は、赤十字奉仕団員として、いつまでも忘れないでください。また、活動は必ず「あらゆる面での安全第一」をお願いしたいと思います。（事務局）